

# **DX・データ活用支援ナレッジ集 【全体要約版】**

**経済産業省関東経済産業局  
地域経済部デジタル経済課**

**令和6年9月**

# 1. 本資料の目的

# 1. 本資料の目的

- 地域中小企業データ活用ブートキャンプ事業は、中小企業のDX・データ活用と支援人材の育成を目的として令和3年度から令和5年度にかけて実施をした事業である。
- 本事業で蓄積されたノウハウや事例等を「ナレッジ集」（以下、本資料）として公表をするものである。
- 本資料が企業や支援機関の参考となり、**各地域でDX・データ活用に向けた取り組みが展開される事を期待。**

## ◆ 概要

経済産業省関東経済産局が主催、株式会社クニエを委託事業者として連携団体（各地域の支援機関）及び参加企業に対して研修プログラムの提供、データ活用人材の育成を実施。



（事業スキーム）

## ◆ 関連URL

「地域中小企業データ活用ブートキャンプ事業」

令和3年度

[https://www.kanto.meti.go.jp/press/20220704bootcamp\\_press.html](https://www.kanto.meti.go.jp/press/20220704bootcamp_press.html)

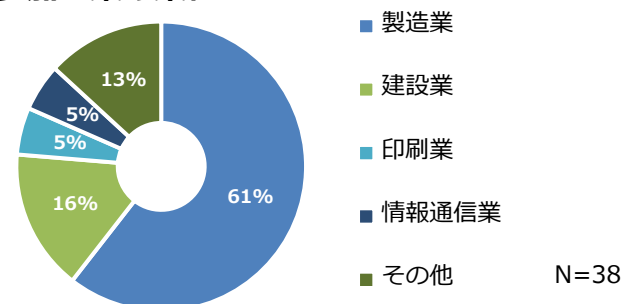
令和4年度

[https://www.kanto.meti.go.jp/press/20220704bootcamp\\_press.html](https://www.kanto.meti.go.jp/press/20220704bootcamp_press.html)

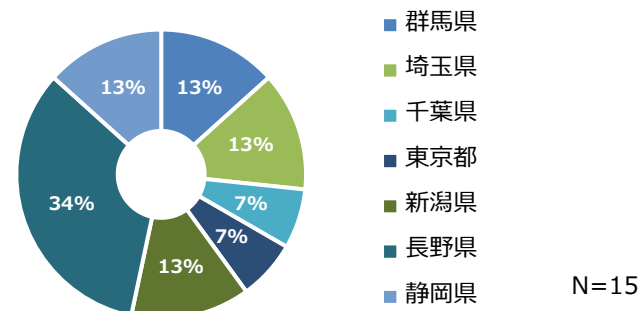
令和5年度

[https://www.kanto.meti.go.jp/seisaku/iot\\_robot/digital\\_dx/sme\\_bootcamp.html](https://www.kanto.meti.go.jp/seisaku/iot_robot/digital_dx/sme_bootcamp.html)

## ◆ 参加企業の業種



## ◆ 参加連携団体の地域（都道府県単位）



## 2. 本資料の全体像

## 2. 本資料の全体像

- 本資料は「**ブートキャンプ概要集**」「**ノウハウ集**」「**事例集**」で構成される。
- “DX・データ活用に取り組む企業”や“当該企業を支援する機関”にとって、参考となる内容が掲載されているので、今後の取り組みに活用していただきたい。

### DX・データ活用支援ナレッジ集

#### ブートキャンプ概要集

##### 内容

- 日本におけるDX・データ活用の取り組み状況とその必要性について
- 令和5年度地域中小企業データ活用ブートキャンプ事業の実施内容と事業効果について

##### 活用例

- ✓ DX・データ活用に向けた取り組みの意義について学ぶ
- ✓ 本事業の取り組みを参考にして、自らデータ活用に挑戦する事を検討する

#### ノウハウ集

- DX・データ活用に関する基礎知識やプロセスについて
- 支援機関による伴走支援のポイントや体制構築に向けた組織作りについて
- 企業の高付加価値化に向けた企業・支援機関のスキルチェックシートの活用について

- ✓ DX・データ活用の基礎知識について学ぶ
- ✓ 支援機関における伴走支援のアプローチやポイントについて学ぶ
- ✓ 企業の伴走支援に求められるスキルを理解する
- ✓ スキルチェックシートを活用して今後の方向性を判断する

#### 事例集

- 本事業参加企業の取組内容と成果創出に向けた連携団体による伴走支援の事例

- ✓ 参加企業の取り組みを参考にして自社のDX・データ活用に向けた取り組みを検討する
- ✓ 連携団体の伴走支援を参考にして組織的な支援方法、体制の構築を検討する

## 3. ブートキャンプ°概要集について

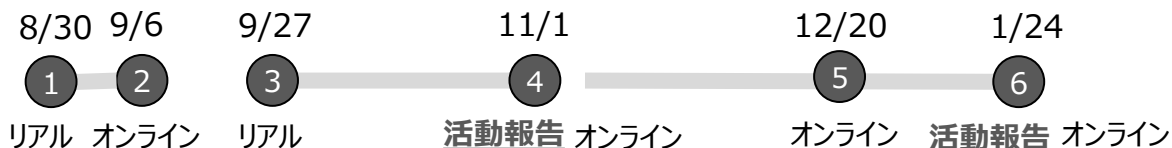
# ブートキャンプ概要集の構成について

1. 地域中小企業向け研修
  1. 講義
  2. ワークショップ
  3. 活動報告会
2. 企業別個別相談会
3. DXコーディネータ向け研修
  1. 講義
  2. ワークショップ
  3. 支援結果報告会
4. 実施結果

# 地域中小企業向け研修 (1/2)

- 地域中小企業向け研修にて、**データ活用の必要性や進め方・アプローチ、社内データの有効的な利用方法などを習得**。個別相談会にて、個社ごとに活動をサポート。

| 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 |
|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|
|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|



## Step1 : 理解

データ活用理解

データ分析  
ツール理解

### 「データ活用」研修

- ・データ活用の有意性、活用手段、分析手法、世の中の動向、活用ツールを理解する
- ・自社の経営課題・業務課題に対するデータ活用による解決方法を立案する力を身につける



## Step2 : 企画

テーマ  
検討

活動  
計画  
検討

活動  
計画  
作成

### 「活動計画書」作成

- ・自社の経営課題・業務課題の解決に向けて、データ活用活動計画を立案する
- ・データ活用の目的、現状把握（業務課題・データ状態）、将来のありたい姿とその効果を仮説立案し、机上で検証する

## Step3 : 実施

要件定義

データ準備

分析・モデル構築・検証

現状調査・構想

ツール選定・設計

BI導入・構築

企画ブラッシュアップ

### 実証実験

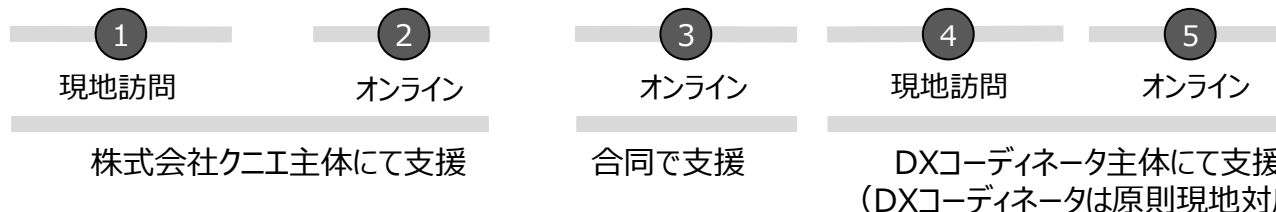
- ・データ活用活動計画に基づき、データ活用の効果を検証する
- ・仮説立案・机上検証の結果をツール等を用いて実証し、データ活用の効果を測る



地域  
中小  
企業  
向け  
研修

個別  
相談会

※開催日は  
個別に調整



## 地域中小企業向け研修 (2/2)

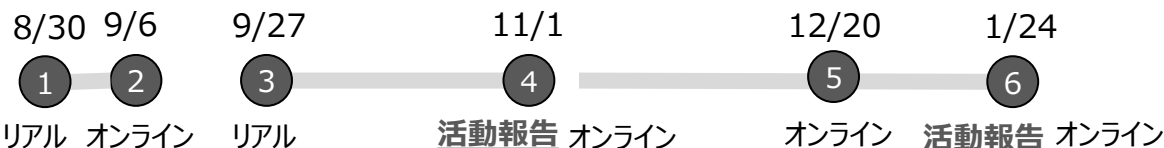
| 研修<br>ステップ | 開催回<br>開催方法   | 日時                            | 内容                                                                                                                                        |
|------------|---------------|-------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Step 1     | 第1回<br>リアル    | 2023年8月30日（水）<br>13:00-17:00  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加企業・DXコーディネータの自己紹介</li> <li>・データ活用・課題整理方法理解</li> <li>・活動計画書の考え方</li> <li>・課題整理ワークショップ</li> </ul> |
|            | 第2回<br>オンライン  | 2023年9月6日（水）<br>14:00-17:00   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・データ分析ツール理解</li> <li>・事例紹介① PowerBI事例</li> <li>・BIツール演習（初級編）（任意参加）</li> </ul> ※担当DXコーディネータ参加必須     |
| Step 2     | 第3回<br>リアル    | 2023年9月27日（水）<br>14:00-17:00  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動計画策定方法</li> <li>・事例紹介② 製造業系データ分析の手法</li> <li>・活動計画報告会の進め方</li> <li>・ワークショップ（テーマ）</li> </ul>     |
|            | 第4回<br>オンライン  | 2023年11月1日（水）<br>10:00-16:30  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動計画報告会</li> <li>・実証の進め方</li> <li>・BIツール演習（個別）※①</li> </ul>                                       |
| Step 3     | 第5回<br>オンライン  | 2023年12月20日（水）<br>14:00-15:30 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例紹介③ 他社のDXの継続的な取組み</li> <li>・活動報告会の進め方</li> </ul>                                                |
|            | 第6回<br>ハイブリッド | 2024年1月24日（水）<br>13:00-17:00  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動報告会</li> <li>・支援施策紹介</li> <li>・修了式</li> </ul>                                                   |

※①：午前・午後の部に分けて開催し、間に活動計画報告会を開催予定。BIツール使わない参加企業は個別相談会を実施。

# 企業別個別相談会

- 地域中小企業向け研修にて、**データ活用の必要性や進め方・アプローチ、社内データの有効的な利用方法などを習得**。個別相談会にて、**個社ごとに活動をサポート**。

| 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 |
|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|
|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|



## Step1 : 理解

データ活用理解

データ分析  
ツール理解

## Step2 : 企画

テーマ  
検討

活動  
計画  
検討

活動  
計画  
作成

## Step3 : 実施

要件定義

データ準備

分析・モデル構築・検証

現状調査・構想

ツール選定・設計

BI導入・構築

企画ブラッシュアップ

### 「データ活用」研修

- ・データ活用の有意性、活用手段、分析手法、世の中の動向、活用ツールを理解する
- ・自社の経営課題・業務課題に対するデータ活用による解決方法を立案する力を身につける



### 「活動計画書」作成

- ・自社の経営課題・業務課題の解決に向けて、データ活用活動計画を立案する
- ・データ活用の目的、現状把握（業務課題・データ状態）、将来のありたい姿とその効果を仮説立案し、机上で検証する

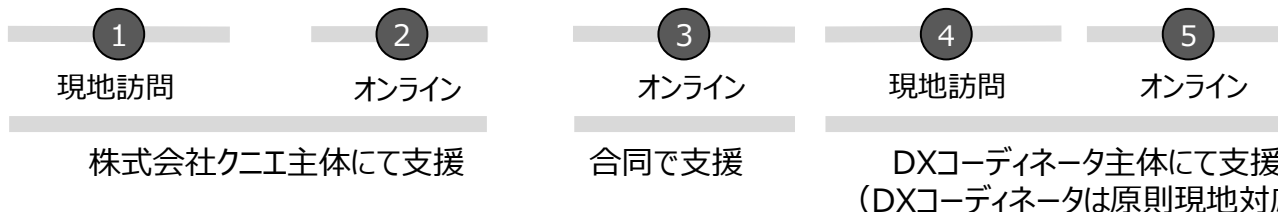
### 実証実験

- ・データ活用活動計画に基づき、データ活用の効果を検証する
- ・仮説立案・机上検証の結果をツール等を用いて実証し、データ活用の効果を測る



## 個別 相談会

※開催日は  
個別に調整



# DXコーディネータ向け研修 (1/2)

- 「DXコンサル方法」、「活動計画策定支援ポイント」、「実証支援ポイント」等を座学及びワークショップで学ぶとともに、**参加企業の個別相談対応等伴走支援を株式会社クニエと一緒に実施**することで、実践的な支援ノウハウを習得。DX支援人材（データ活用人材）の育成を行う。

| 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 |
|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|
|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|



## Step1 : 理解

支援内容・役割理解

支援事例理解

DXコンサル方法理解

参加企業の  
支援計画策定

### 「データ活用支援」研修

- 本事業におけるDXコーディネータとしての支援内容・役割及びDXコンサルティング方法を理解する
- 事例ベースで本事業の内容を理解する
- 参加企業の支援計画を策定する

## Step2 : 企画

計画策定  
方法理解計画策定支  
援方法理解

支援サポート

### 「活動計画書」作成支援

- 事例ベースでデータ活用活動計画策定支援のポイントを理解する
- 仮説テーマに基づき、活動計画を作成することで、活動計画書の作成方法を理解する



## Step3 : 実施

実証支援  
方法理解支援方法  
個別相談支援結果  
フィードバック

支援サポート

### 実証実験支援

- 事例ベースでデータ活用活動計画に基づく実証の支援のポイントを理解する
- 支援結果を個別にDXコーディネータにフィードバックし、事業終了後の支援方法のアドバイスを実施する

DX  
コーディネータ  
向け  
研修

# DXコーディネータ向け研修 (2/2)

| 研修<br>ステップ | 開催回            | 日時                        | 内容                                                                                                                                              |
|------------|----------------|---------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Step 1     | 第1回<br>(リアル)   | 2023年6月28日（水） 14:00-17:00 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業概要・令和4年度事例紹介</li> <li>・DXコーディネータの自己紹介</li> <li>・支援内容・役割・DXコンサル方法の理解</li> <li>・第1回個別相談会に向けて</li> </ul> |
|            | 第2回<br>(リアル)   | 2023年8月23日（水） 14:00-17:00 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援計画の策定方法</li> <li>・ワークショップ（支援計画策定）<br/>（担当企業ベースに策定）</li> </ul>                                         |
| Step 2     | 第3回<br>(オンライン) | 2023年9月20日（水） 14:00-17:00 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動計画策定支援のポイント<br/>（事例含）</li> <li>・DXコーディネータの活動報告・相談</li> <li>・ワークショップ（活動計画書策定）</li> </ul>               |
| Step 3     | 第4回<br>(オンライン) | 2023年11月8日（水） 14:00-17:00 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・実証支援のポイント（事例含）</li> <li>・DXコーディネータの活動報告・相談</li> <li>・DXコーディネータの個別相談<br/>（1社30分）</li> </ul>              |
|            | 第5回<br>(オンライン) | 2024年1月31日（水） 13:00-17:00 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・DXコーディネータへの個別フィードバック<br/>（1社15分）</li> <li>・支援結果報告会</li> <li>・研修内容総括・修了式</li> </ul>                      |

# 地域中小企業向け研修 講義 実施結果

- 地域中小企業向け研修の講義では、DX及びデータ活用を企業で実施する上で必要となる知識や事例を学ぶことで、新たなスキルを習得し、DXリテラシーが向上した。
- 専門的な技術スキルの向上は、今後の課題である。

## DXリテラシー標準

### 研修対象

### DXリテラシー標準策定のねらい

働き手一人ひとりが「DXリテラシー」を身につけることで、DXを自分事ととらえ、変革に向けて行動できるようになる

#### Why DXの背景

|         |
|---------|
| 社会の変化   |
| 顧客価値の変化 |
| 競争環境の変化 |

#### What DXで活用されるデータ・技術

|        |               |
|--------|---------------|
| データ    | 社会におけるデータ     |
|        | データを読む・説明する   |
|        | データを扱う        |
|        | データによって判断する   |
| デジタル技術 | AI            |
|        | クラウド          |
|        | ハードウェア・ソフトウェア |
|        | ネットワーク        |

#### How データ・技術の活用

|         |                 |
|---------|-----------------|
| 活用方法・事例 | データ・デジタル技術の活用事例 |
|         | ツール活用           |
| 留意点     | セキュリティ          |
|         | モラル             |
|         | コンプライアンス        |

### マインド・スタンス

デザイン思考／アジャイルな働き方

新たな価値を生み出す  
基礎としてのマインド・スタンス

|             |             |           |          |
|-------------|-------------|-----------|----------|
| 顧客・ユーザーへの共感 | 常識にとらわれない発想 | 反復的なアプローチ |          |
| 変化への適応      | コラボレーション    | 柔軟な意思決定   | 事実に基づく判断 |

- ・ 自社でDX・データ活用を推進するために必要なスキル習得の研修により、基礎リテラシーの向上ができた
- ・ デジタル技術やセキュリティなどの専門的スキルの醸成は引き続き、習得のための機会を創出することが肝要である

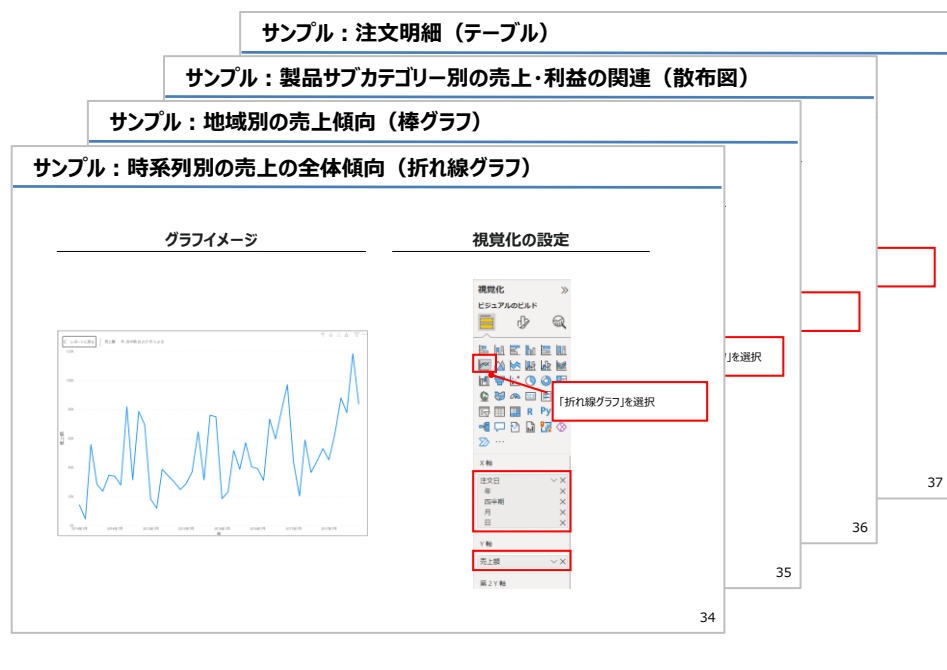


# 地域中小企業向け研修 ワークショップ（BI研修） 実施結果

- BIツールワークショップでは、参加者がBIツールを実際に操作してみることで、Excelと比較しても簡単に利用できることに気づき、抵抗感を払しょくすると共に、新たなスキルを習得することができた。

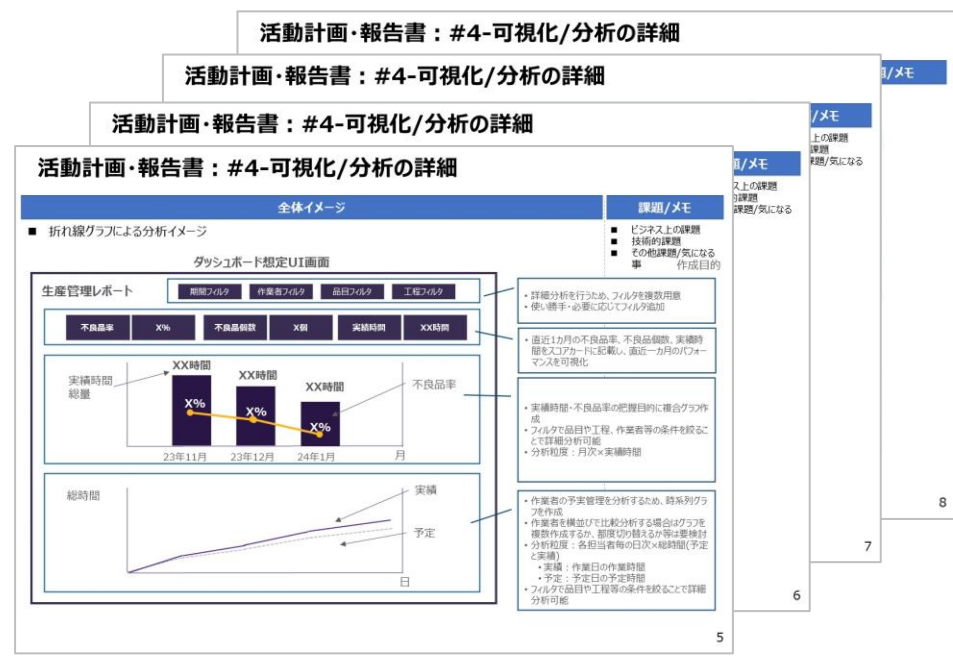
## BIツール研修（初級編）

- ・ 研修講師に合わせて操作し、質疑応答を受けながら進めることで、理解を深めると共に、分析イメージを膨らませることができた



## BIツール研修（個別相談）

- ・ 自社のデータを利用してBIツールを操作してみることで、データ活用の実務利用をイメージすることができ、理解度が格段に向上した



# 地域中小企業向け研修 活動報告会 実施結果

- 全ての参加企業が、濃淡はあるものの成果を創出し、本事業を修了。

| 企業名             | データ活用テーマ                 | 実施結果                                                                                                                                                                  |
|-----------------|--------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 株式会社<br>土屋合成    | データを用いた判断指標の作成           | <ul style="list-style-type: none"> <li>必要な情報のみを活用できるようにPower BIを活用して見える化</li> <li>VBAを利用しデータクレンジングを実施することでリレーション可能な対応</li> <li>Power BIの使用手順整備</li> </ul>             |
| 株式会社<br>日東電機製作所 | 構造設計の出図時間削減              | <ul style="list-style-type: none"> <li>プロセスの可視化により、定例会議にて業務改善を協議する仕組みを構築</li> <li>出図作業の標準化とドキュメント整備による作業時間の削減</li> </ul>                                              |
| 城北機業<br>株式会社    | 原価情報の一元管理                | <ul style="list-style-type: none"> <li>間材一元管理システムのパッケージ機能確認と選定のための比較・検証</li> <li>システム導入後の間材業務の削減時間の算出</li> </ul>                                                      |
| 某社（製造業）         | 高付加価値製品の加工時間創出           | <ul style="list-style-type: none"> <li>不具合対応時間の集計・可視化による相関検証から影響の低さを発見</li> <li>生産スケジュール管理の見える化・最適化による効果創出へ転換</li> </ul>                                              |
| 西田技研工業<br>株式会社  | 生産量維持、向上のための加工技術承継       | <ul style="list-style-type: none"> <li>切削加工技術の基礎知識テキスト化と新人社員による理解度の定期検証</li> <li>（プログラム・治具・刃物など）関連情報の一元化と作業手順書の作成</li> <li>作業手順書による新人の加工作業の独力化と作業時間の短縮化を実現</li> </ul> |
| 株式会社<br>八洲      | 工事管理データの運用適正化＋活用         | <ul style="list-style-type: none"> <li>PowerBIデモ作成による社内運用のイメージ化</li> <li>データ分析を想定したkintoneによる工事管理システムの構築着手</li> </ul>                                                 |
| 株式会社<br>オギノパン   | データを活用した各店の売上予測と発注業務の効率化 | <ul style="list-style-type: none"> <li>各店の売上予測立案のためのデータ集計、分析</li> <li>店舗集客と天候の相関分析による店舗売上への影響度調査</li> </ul>                                                           |
| 中村建設<br>株式会社    | 工事施工業務の可視化・効率化           | <ul style="list-style-type: none"> <li>現場監督業務フローの作成と施工プロセス業務の一覧化</li> <li>施工プロセスの関連システムの可視化と改善点の発見</li> </ul>                                                         |

# 個別相談会 実施結果

- 個別相談会は、伴走支援では大変有益であり、今年度も企業と良好な関係を構築することができただけでなく、DXコーディネータと地域DX推進に向けた発展的・建設的継続的な関係構築を構築することができた。

## リアル（対面）対応

- ・ 初回挨拶によるアイスブレイク、工場内見学、システム機能確認など、各企業をよく知ることは、関係構築に非常に有益であり、高い満足を得ることができた

## 個別相談会（現地訪問）

- ・ 対面協議により、企業の抱える業務プロセス課題、データ保管・活用状況、利用システムなどを正しく把握し、訴求する助言の提供を実施した

## DXコーディネータの訪問による伴走支援

- ・ DXコーディネータによる頻繁な企業訪問により、きめ細かい伴走支援を実施し、企業とDXコーディネータの間に、大きな信頼関係が育まれたことで、企業のDX継続に繋がる形ができた

## オンライン対応

- ・ 対面協議で構築した円滑な関係と正しい現状理解により、オンライン会議の協議事項が明確になり、短時間で効果的な助言や情報を提供することができた

## 個別相談会（オンライン）

- ・ 3回予定の個別相談会に加え、進捗状況や課題により、エクストラ回を設けることで、丁寧かつ密度の濃い支援を実施し、成果創出に寄与できた

## サンプル情報の提供

- ・ データ変換・加工、BIツールによる分析グラフ、業務機能一覧など、データ活用に関連した様々な情報の提供により、企業の理解促進に寄与できた

# DXコーディネータ向け研修 講義 実施結果

- DXコーディネータのスタイルを、個々に確立することができた、次へのモチベーションを醸成できた。

## DX推進スキル標準 共通スキルリスト

### 研修対象

|        |                                                                                                                     |        |                                                                                                                                                               |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ビジネス変革 | <b>戦略・マネジメント・システム</b><br>ビジネス戦略策定・実行<br>システムズエンジニアリング<br>プロダクトマネジメント<br>エンタープライズアーキテクチャ<br>変革マネジメント<br>プロジェクトマネジメント | テクノロジー | <b>ソフトウェア開発</b><br>コンピューターサイエンス<br>チーム開発<br>ソフトウェア設計手法<br>ソフトウェア開発プロセス<br>Webアプリケーション基本技術<br>フロントエンドシステム開発<br>バックエンドシステム開発<br>クラウドインフラ活用<br>SREプロセス<br>サービス活用 |
|        | <b>ビジネスモデル・プロセス</b><br>ビジネス調査<br>ビジネスモデル設計<br>ビジネスアナリシス<br>検証（ビジネス視点）<br>マーケティング<br>ブランディング                         |        | <b>デジタルテクノロジー</b><br>フィジカルコンピューティング<br>その他の先端技術<br>テクノロジートレンド                                                                                                 |
|        | <b>デザイン</b><br>顧客・ユーザー理解<br>価値発見・定義<br>設計<br>検証（顧客・ユーザー視点）<br>その他のデザイン技術                                            |        | <b>セキュリティマネジメント</b><br>セキュリティ体制構築・運営<br>セキュリティマネジメント<br>インシデント対応と事業継続<br>プライバシー保護                                                                             |
| データ活用  | <b>データ・AIの戦略的活用</b><br>データ理解・活用<br>データ・AI活用戦略<br>データ・AI活用業務の設計・事業実装・評価                                              | セキュリティ | <b>セキュリティ技術</b><br>セキュア設計・開発・構築<br>セキュリティ運用・保守・監視                                                                                                             |
|        | <b>AI・データサイエンス</b><br>数理設計・多変量解析・データ可視化<br>機械学習・深層学習                                                                |        | <b>ヒューマンスキル</b><br>リーダーシップ<br>コラボレーション                                                                                                                        |
|        | <b>データエンジニアリング</b><br>データ活用基盤設計<br>データ活用基盤実装・運用                                                                     |        | <b>パーソナルスキル</b><br>コンセプチュアルスキル<br>ゴール設定<br>想像的な問題解決<br>批判的思考<br>適用力                                                                                           |

- DXコーディネータとして必要となる「コンサルティングスキル」「マネジメントスキル」「データ活用スキル」習得のための研修により、リテラシーの向上ができた
- デジタル技術やセキュリティなどの専門的スキルの醸成は引き続き、習得のための機会を創出することが肝要である

# DXコーディネータ向け研修 ワークショップ 実施結果

- DXコーディネータの役割や振る舞いについての理解を醸成するには役立った。
- 企業のデータ活用取組を先行して体験することで、伴走支援のポイントを理解した。

## 支援計画の立案

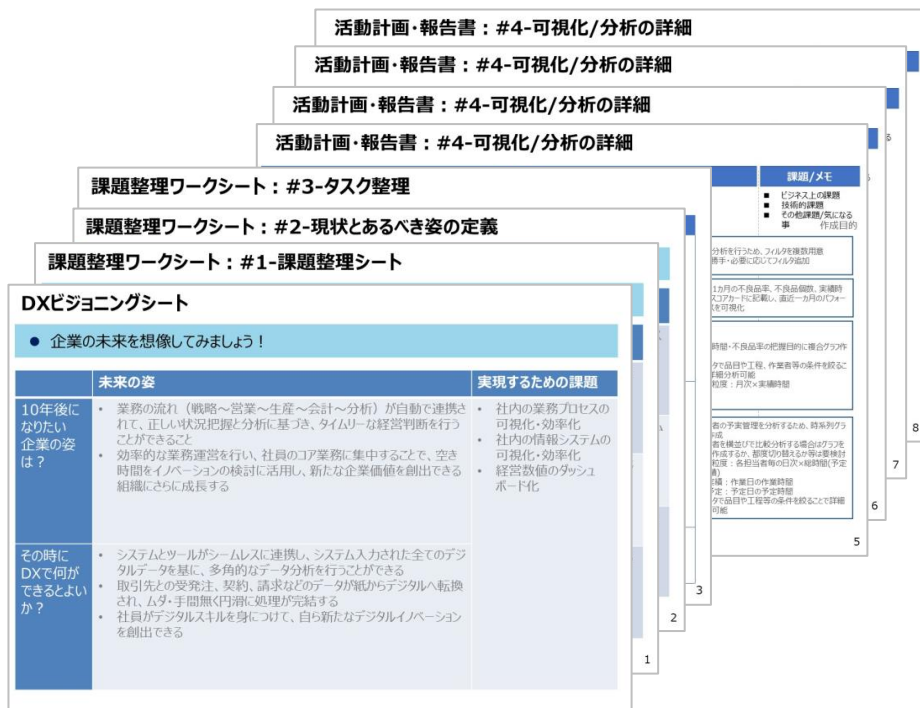
- 各企業の状況を踏まえて、支援計画書を作成することで、伴走支援のゴール及び支援内容を明確にすると共に、DXコーディネータのコミットメントを促した

### 【プロジェクト管理資料】#1 支援計画書

|        |                                                                                                                        |                                                                                                                           |                                                               |                                                                           |
|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------|
| 支援先企業名 |                                                                                                                        |                                                                                                                           |                                                               |                                                                           |
| 支援方針   | 企業のデータ活用を進める上で、経営的視点、業務的視点、システムの視点で伴走支援を行い、企業のDX効果を創出する                                                                |                                                                                                                           |                                                               |                                                                           |
| 支援のゴール | データ活用テーマを検証・実現することにより、売上拡大・業務効率化・生産性向上など、実質的な効果創出に寄与する                                                                 |                                                                                                                           |                                                               |                                                                           |
| 支援概要   | 企業の経営層及びDX推進担当者と協議し、企業が抱える問題を共に整理し、データ活用による実現手段を共に考え、実現に向けた伴走支援を行う                                                     |                                                                                                                           |                                                               |                                                                           |
| 支援内容   | Step1 ～9月末                                                                                                             | Step2 ～10月末                                                                                                               | Step3 ～1月中旬                                                   |                                                                           |
|        | 課題整理                                                                                                                   | 計画策定                                                                                                                      | 検証                                                            | 報告                                                                        |
|        | 対象企業へ以下に関する助言・サポートを行う                                                                                                  | 対象企業へ以下に関する助言・サポートを行う                                                                                                     | 対象企業へ以下に関する助言・サポートを行う                                         | 対象企業へ以下に関する助言・サポートを行う                                                     |
|        | <ul style="list-style-type: none"><li>業務の現状把握</li><li>内在する問題の抽出</li><li>問題の真因特定</li><li>課題定義</li><li>対策方針の立案</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>活動テーマの設定</li><li>活動テーマの実現可能性の検証</li><li>期待する効果の客観的な検証</li><li>関連する参考情報の収集</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>検証に資する技術情報の提供</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>活動報告のまとめ方</li><li>情報開示の調整</li></ul> |
|        |                                                                                                                        |                                                                                                                           |                                                               |                                                                           |

## ビジョン・課題の整理・データ活用活動計画の立案

- 自組織のDXビジョン、課題、データ活用テーマの設定、活動計画を作成してみることで、伴走支援のポイントを理解した



# DXコーディネータ向け研修 支援結果報告会 実施結果

- 各DXコーディネータの成長に貢献し、今後の取組に繋げる事ができた。

## DXコーディネータの感想

### DXコーディネータとして得たこと（一部抜粋）

- ・ 研修を通じて、データ分析の重要性やDXについて理解できた。
- ・ コーディネータとして活動するステップを理解することができた。
- ・ PowerBIの基本的な活用方法が理解できた。応用については、さらに習得が必要。
- ・ 当事者意識を持って企業の経営者や職員を巻き込んだ連携がプロジェクトの推進につながる。
- ・ 一緒に考えることの重要性を改めて実感しました
- ・ ビジョンの設定と課題の整理が重要であり、取引先と向き合っその経験を得られたこと
- ・ コーディネーターとしての考え方・取組み姿勢・必要知識
- ・ PowerBIを始めとしたBIツールの機能と出来ること・出来ないこと・データの重要性・データ構成の重要性

### 今後のDXコーディネータとしての取組予定（一部抜粋）

- ・ DX支援の事例収集と、個人的なデータ分析に関するスキル強化。スキル強化については、自主的に外部機関で研修を受けることを検討中。
- ・ 参加企業に対して、引き続き中間目標達成に向けた活動を支援していく。
- ・ 先ずは不足の知識・スキルを協力ベンダーの力を借りながら徐々に経験を得て自分の知識・スキルとする努力をする。
- ・ 伴走支援を実践する中でスキル向上に努めていきます。
- ・ 価値創造に向け、データ収集・蓄積データ活用が重要であることを提案できる知識とスキルを習得していきます。

### まとめ

DXコーディネータ向け研修では、DX、データ活用に関する基礎知識をはじめ、企業のDX支援ノウハウや技術的な対応方法などを講義で学んでいただいた。また、企業との個別相談会や活動計画書の企画、実証の支援を通じて実践的な支援の場を提供した。

初めてDX支援に取り組むコーディネータが多く、苦慮する点もあったと推察するが、各DXコーディネータが研修で得られた知識やノウハウを活かして企業の伴走支援を実施し、支援企業の成果創出に貢献する事が出来た。

企業とDXコーディネータがそれぞれの役割を理解してプロジェクトの完遂に向けて取り組む事が重要であり、本事業ではそのためのスキル向上に貢献する事が出来た。

それぞれのDXコーディネータが今後もスキル向上に取り組み、最適な支援体制を構築していただくとともに多くの企業のDX推進に貢献していただきたい。

## 4. ノウハウ集について

# ノウハウ集の構成について

1. DX・データ活用について
  1. DX とは
  2. データ活用とは
  3. DX支援の流れ
2. データ活用の進め方
3. DX・データ活用支援体制構築のポイント
  1. 伴走支援の組織・体制づくり
  2. 支援人材のスキルと育成の進め方
4. データ活用推進のためのチェックリスト
  1. 企業の高付加価値化実現のチェックリスト
  2. 支援人材チェックリスト

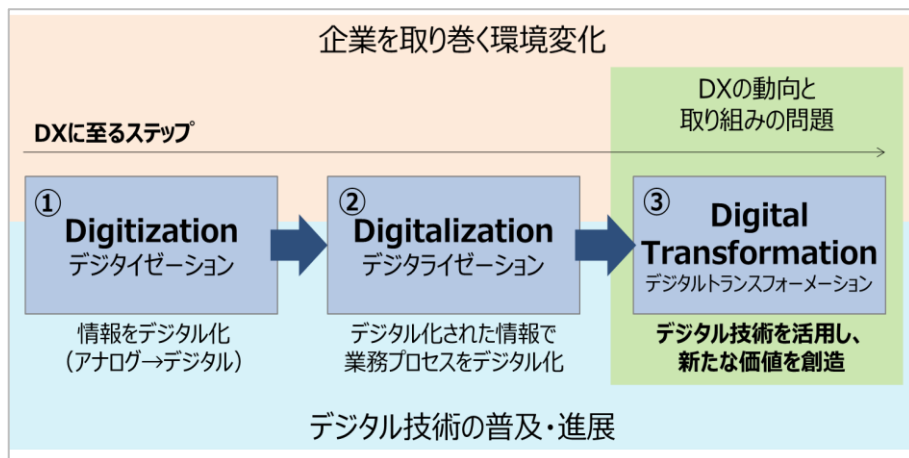
# DX・データ活用について

- DXとは、顧客視点で新たな価値を創出していくために、ビジネスモデルや企業文化の変革に取り組むことである。
- DXに取り組む際には、デジタル化する事を目的とするのではなく、新たな価値を創造するためにデータやデジタル技術を活用し、ビジネスにおいて何を実現できるか理解する必要がある。

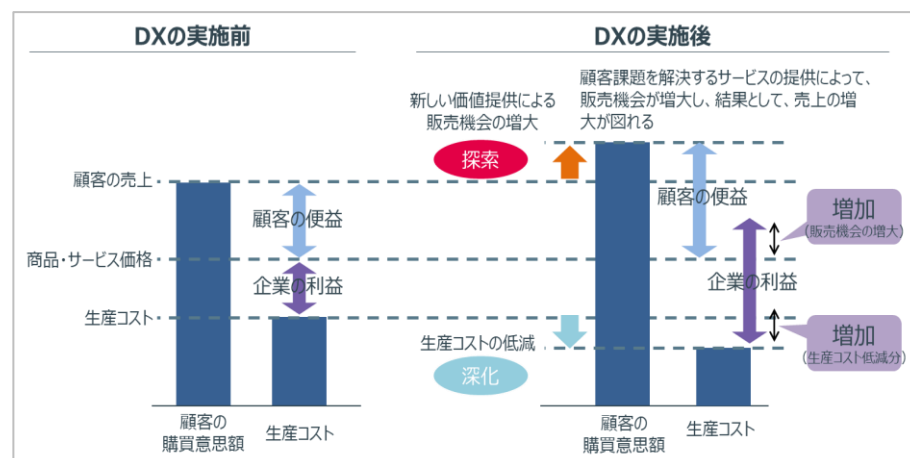
デジタルガバナンス・コードにおけるDXの定義

企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、**データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること**

DXに至るステップ



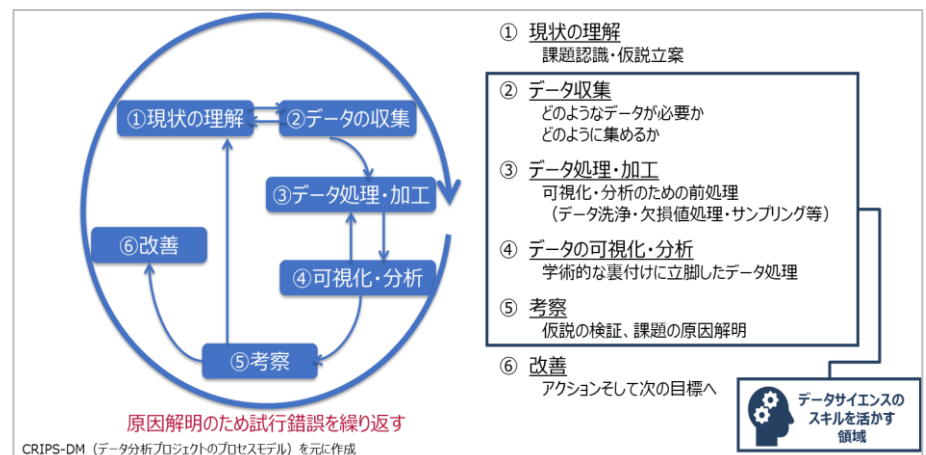
DXで目指すこと



- ## データの種類

|   | データの種類      | 具体例                                                    |
|---|-------------|--------------------------------------------------------|
| 1 | 行動ログデータ     | POSデータ、Web閲覧データ、Web予約データ 等                             |
| 2 | ソーシャルデータ    | つぶやき投稿データ、写真投稿データ、商品評価データ、レシピ投稿データ 等                   |
| 3 | 位置データ       | 交通機関利用データ、GPSデータ、モバイル空間データ、ポイント使用データ、チェックインデータ、地図データ 等 |
| 4 | 気象データ       | 気温データ、雨量データ、風速データ、地震速報、天気状況投稿データ 等                     |
| 5 | センサデータ      | 装置・機械のセンサデータ、スマートフォンのセンサデータ、設置センサデータ、自動車・家電データ 等       |
| 6 | 画像・音声・動画データ | 業務記録音声データ、ウェアラブル機器からのデータ、記録用・監視用カメラ・ビデオデータ 等           |
| 7 | その他のデータ     | IRデータ、公共オープンデータ、データ包含API、有料販売データ 等                     |

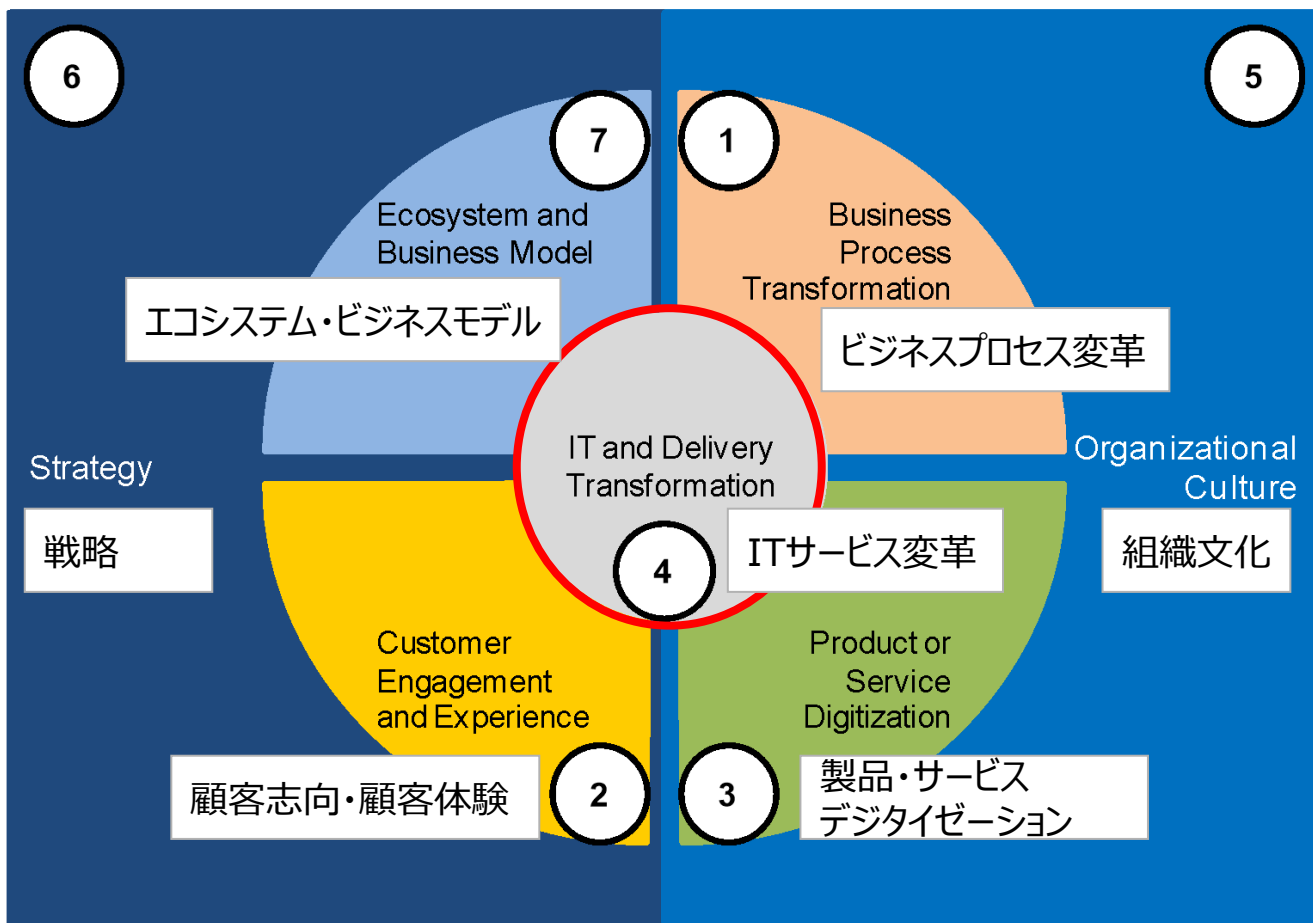
## データ活用の流れ



## データ活用の進め方 (2/3)

- データ活用は、DXの成功に向けた7つの要素の中心に位置づけられる。データ活用を通じて、その他の6つの要素を実施することで、より大きな効果を得ることができる。

### デジタルトランスフォーメーションを成功させるための7要素



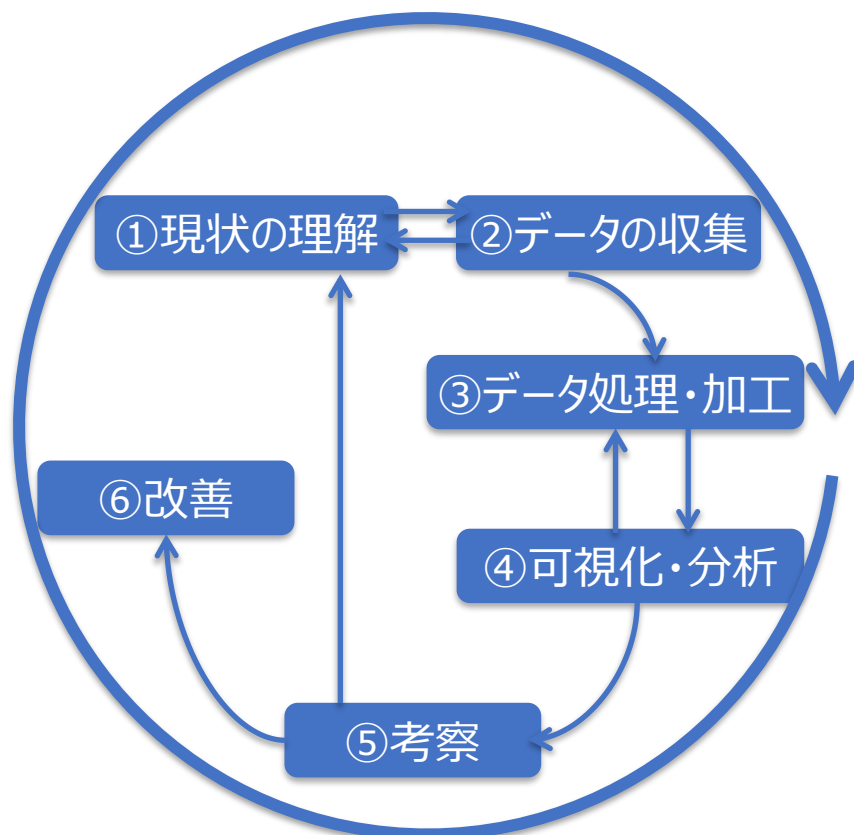
- |   |                             |
|---|-----------------------------|
| ① | 顧客接点を意識したプロセス変革             |
| ② | 顧客満足度、提供価値の向上               |
| ③ | 需要にマッチした製品/サービスデザイン         |
| ④ | アジリティ（機敏性）の実現と <b>データ活用</b> |
| ⑤ | データドリブンの意思決定と持続的成長          |
| ⑥ | 組織として正しい意思決定、利益に繋がる方向性提示    |
| ⑦ | 顧客・パートナーとの相乗効果              |

出所 = "Seven Levers of Digital Transformation"

# データ活用の進め方 (3/3)

- データ活用は、6つのプロセスから成る。なぜデータ分析をするのか目的を整理し、課題の原因に対して仮説立案、検証、改善と進めることを繰り返すことが肝要である。

## データ活用のプロセス



原因解明のため試行錯誤を繰り返す

CRIPS-DM（データ分析プロジェクトのプロセスモデル）を元に作成

① 現状の理解  
課題認識・仮説立案

② データ収集  
どのようなデータが必要か  
どのように集めるか

③ データ処理・加工  
可視化・分析のための前処理  
(データ洗浄・欠損値処理・サンプリング等)

④ データの可視化・分析  
学術的な裏付けに立脚したデータ処理

⑤ 考察  
仮説の検証、課題の原因解明

⑥ 改善  
アクションそして次の目標へ



データサイエンスの  
スキルを活かす  
領域

# DX・データ活用支援体制構築のポイント（1/4）

- DX伴走支援では、支援体制や企業との関係、伴走支援サービス内容などにより、支援方法を決定することが肝要である。重要なことは、伴走支援の走者は「企業」であり、走者の主体性を尊重しながら、伴走者として成功へ寄与することである。

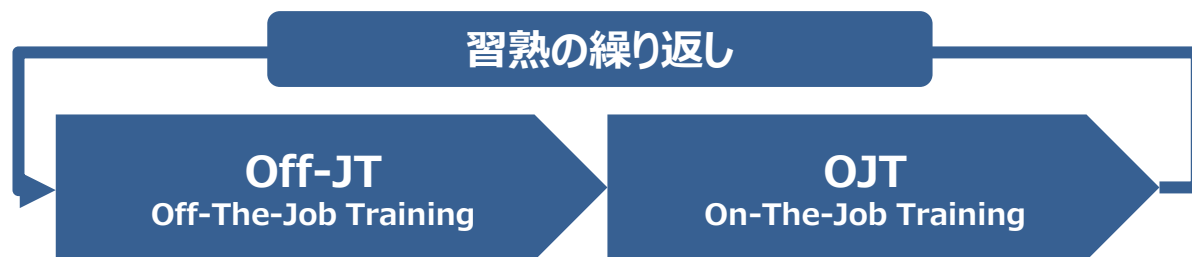
## DX伴走支援の分類

|            |                       |                                                 |
|------------|-----------------------|-------------------------------------------------|
| アドバイザー支援   | 関<br>与<br>度<br>…<br>低 | DX推進組織への助言・情報提供などにより、企業のDX推進をサポートする             |
| コンサルティング支援 | 関<br>与<br>度<br>…<br>中 | DX推進組織の課題解決を一緒に行うことにより、対策を実施し成果を創出する            |
| プロジェクト支援   | 関<br>与<br>度<br>…<br>高 | DX推進組織への課題解決からDXソリューションの実装までを一括で支援し、共に成果創出を実現する |

# DX・データ活用支援体制構築のポイント (2/4)

- 支援人材（DXコーディネータ）の育成は、座学（Off-JT）で理論やスキルを習得し、現場で実践（OJT）による習熟を繰り返すことで、伴走支援で活用できるまでスキルを高めることが重要である。

## 支援人材（DXコーディネータ）育成の基本的な考え方



### 資格取得による専門スキルの習得

支援人材（DXコーディネータ）のあるべき姿を設定し、備えるべきスキルを理解した上で、習得できる資格を選定して学習する。

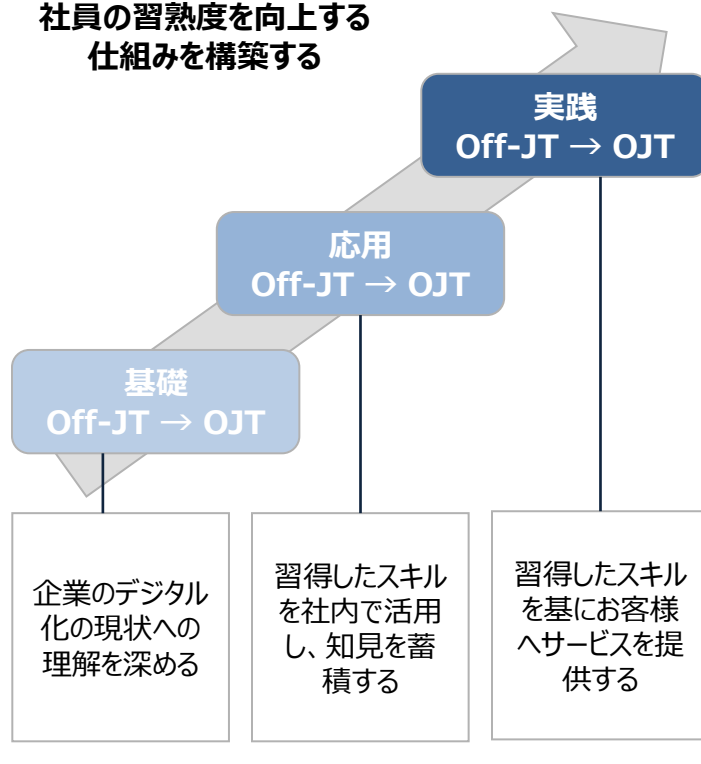


### 伴走支援による専門スキルの醸成

支援先企業へのDX伴走支援にて、改革の目標・テーマ設定、適用技術、ゴールまでのマネジメントなど、習得したスキルを活用して、支援を実施する。



Off-JTとOJTによる  
習熟の繰り返しにより、  
社員の習熟度を向上する  
仕組みを構築する



企業のデジタル  
化の現状への  
理解を深める

習得したスキル  
を社内で活用  
し、知見を蓄  
積する

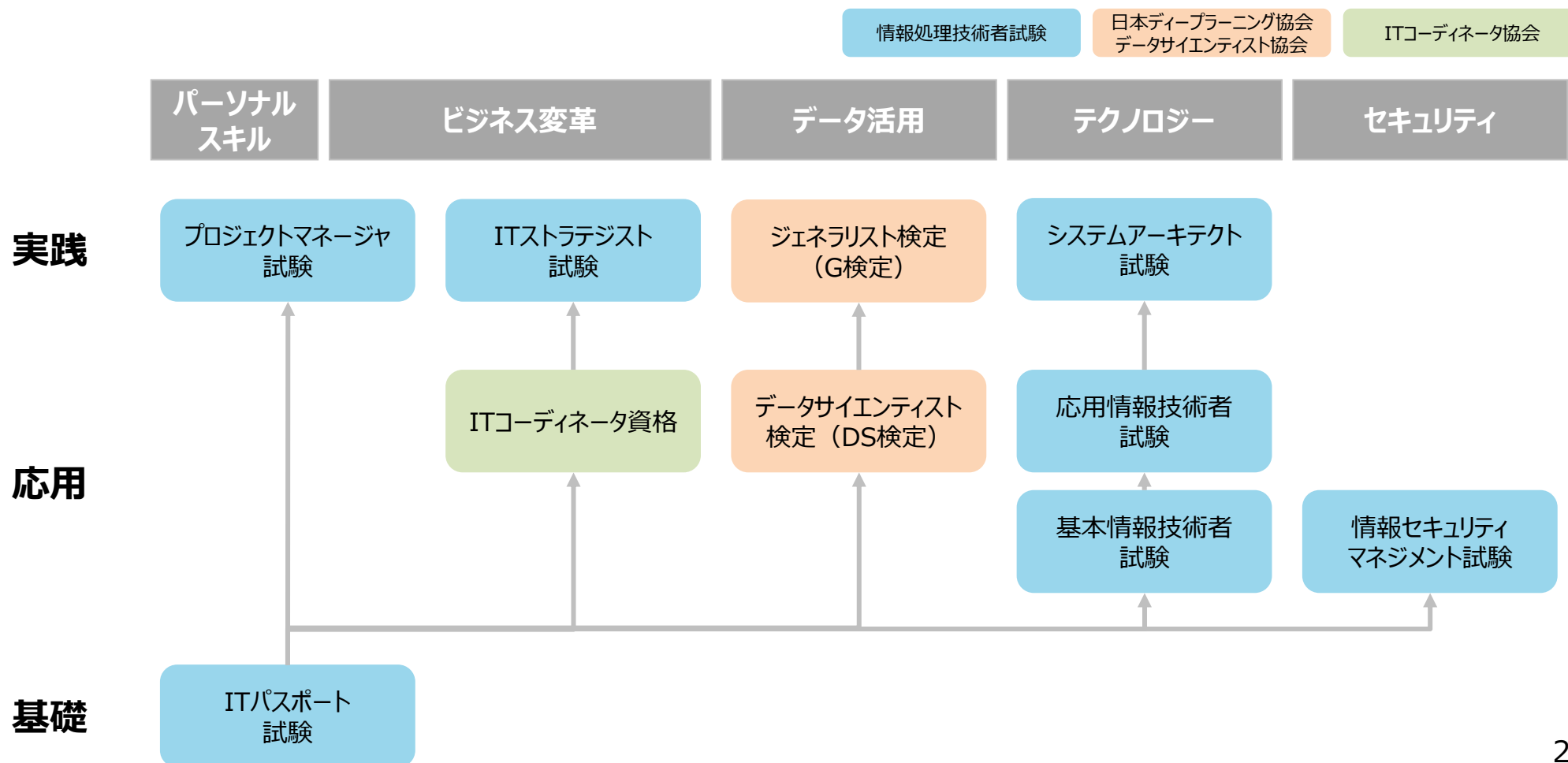
習得したスキル  
を基にお客様  
へサービスを提  
供する

# DX・データ活用支援体制構築のポイント (3/4)

Off-JT

- 支援人材（DXコーディネータ）は、目指すべき人物像の方向性を定め、専門資格を取得することで、スキルアップと顧客の信用を得ることが肝要である。

## 支援人材（DXコーディネータ）の成長ステップ：専門資格の取得



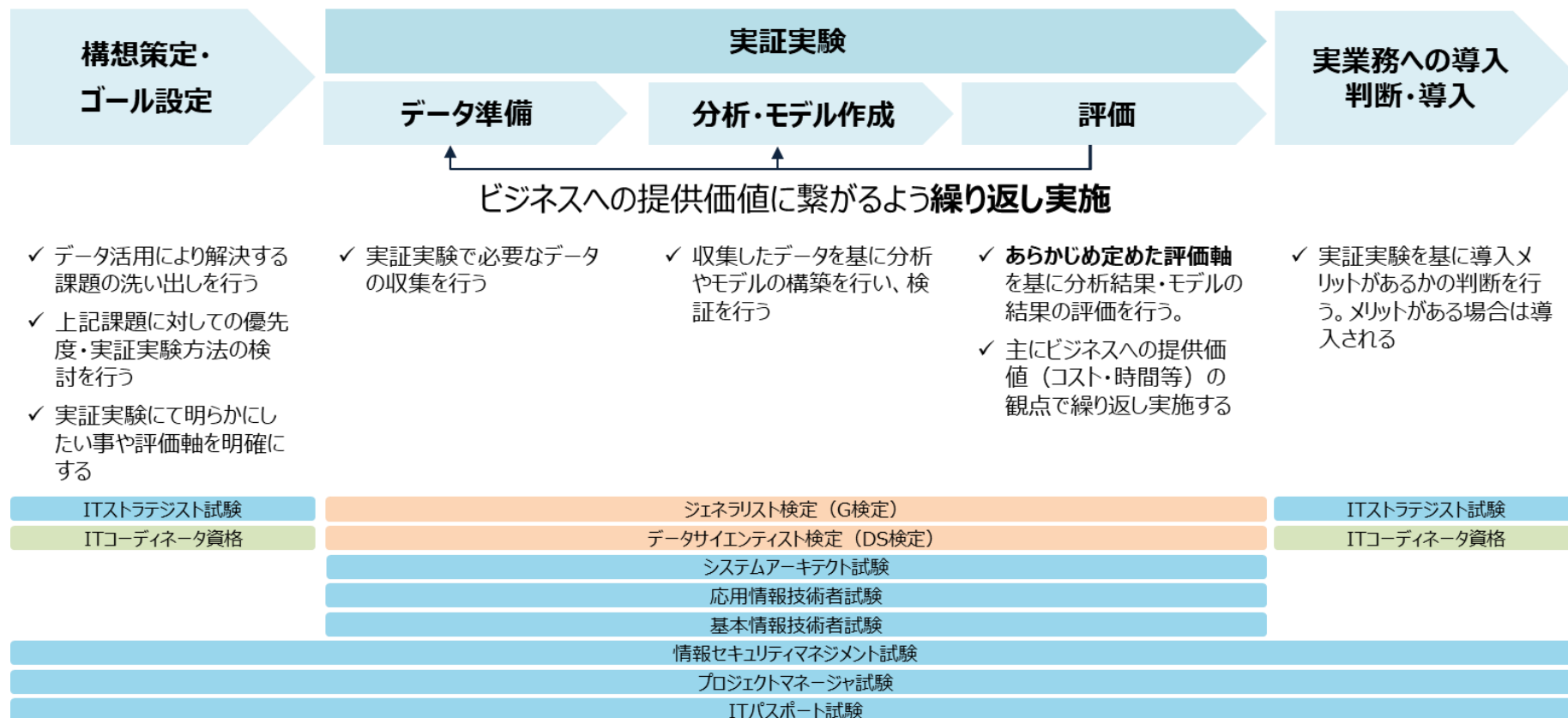
# DX・データ活用支援体制構築のポイント（4/4）

OJT

- DXコーディネータは、資格を通じて習得したスキルを活用して、企業におけるDX構想の策定から検証、業務への導入まで伴走支援する。

## 支援人材（DXコーディネータ）の伴走支援へのスキル活用

### 構想策定・実証実験・導入までの流れ



# データ活用推進のためのチェックリスト（1/3）

## 企業の高付加価値化実現チェックリスト

- 関東経済産業局では、中小企業のビジネス競争性を高めるために、生産性向上（＝高付加価値化／効率化）に向けたデジタル技術の活用を推進している。
- 企業の高付加価値化実現チェックリストは、**支援機関（自治体・外郭団体等、金融機関）**が企業のDX・データ活用の現在の立ち位置を把握し、「稼ぐ力」を養うためのDXスキルの向上を図るためにチェックを行うものである。
- 本チェックリストは、「中小製造業のデジタル技術を活用した“稼ぐ力”の創造に関するチェックリスト（2020年、関東経済産業局公表）」の5つのカテゴリ構成（※）をベースとし、**本事業で得た知見ノウハウ**をもとに企業のデータ活用状況を確認できるよう、**カテゴリ（4）を「データ活用」に更新**している。  
※（1）経営、（2）営業・事務処理・生産/製造管理等、（3）開発・設計・製造現場、（4）データ連携・分析、（5）新価値創出
- チェックリストの該当項目に「○」を付与することで、5つのカテゴリにおける自社のレベルをチャートで確認することができる。
- 定期的にセルフチェックをすることで、組織の強化すべき機能を確認し、DX成熟度を向上することを推奨する。

# データ活用推進のためのチェックリスト (2/3)

- 自社でのデジタル技術を活用した生産現場の見える化や効率化の取り組み状況を把握することを目的に、「高付加価値化の実現に向けたチェックリスト」に基づき、企業の取るべきアクションを定義・実行することが肝要である。

## 企業の高付加価値化実現のチェック項目 (改定)

### ◆チェックリスト全体像



診断用の  
チェックリストにより、  
企業の  
高付加価値化の  
実現度合いを  
確認し、  
強化策を講じる

「データ活用」に資する項目の見直し

# データ活用推進のためのチェックリスト (3/3)

- 実現チェックリストを用いて、定期的に企業の高付加価値化実現度を観測することで、成長度合いや強化策への効果を判定することを推奨する。

## 企業の高付加価値化実現チェックリスト（診断用）

高付加価値化の5つのカテゴリで  
該当するチェック項目に「○」を付記

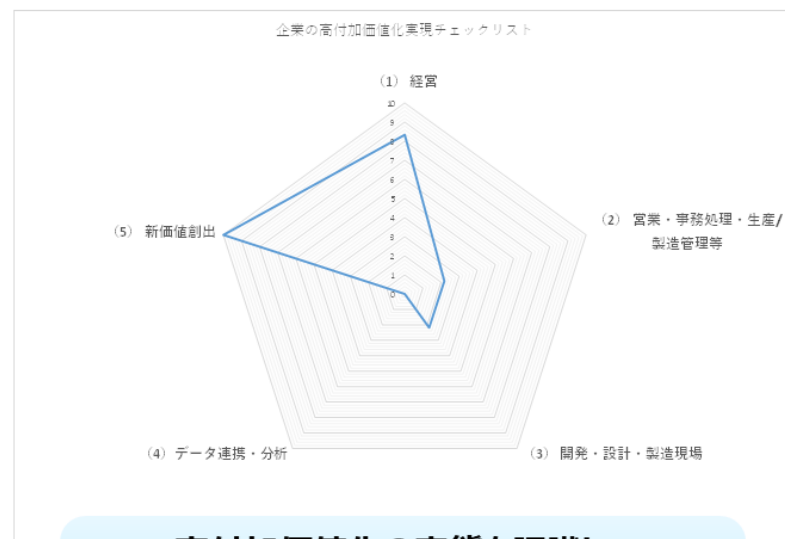
高付加価値化の実現度を  
レーダーチャートで表示

| 企業の高付加価値化実現チェックリスト |            | 達成率 (%) |
|--------------------|------------|---------|
| 経営                 | 経営戦略の明確化   |         |
|                    | 経営方針の策定    |         |
|                    | 経営目標の設定    |         |
|                    | 経営資源の配分    |         |
|                    | 経営体制の構築    |         |
|                    | 経営者の役割     |         |
|                    | 経営者の責任     |         |
|                    | 経営者の権限     |         |
|                    | 経営者の報酬     |         |
|                    | 経営者の評価     |         |
| 営業・事務処理・生産/製造管理    | 営業戦略の明確化   |         |
|                    | 営業方針の策定    |         |
|                    | 営業目標の設定    |         |
|                    | 営業資源の配分    |         |
|                    | 営業体制の構築    |         |
|                    | 営業者の役割     |         |
|                    | 営業者の責任     |         |
|                    | 営業者の権限     |         |
|                    | 営業者の報酬     |         |
|                    | 営業者の評価     |         |
| 開発・設計・製造現場         | 開発戦略の明確化   |         |
|                    | 開発方針の策定    |         |
|                    | 開発目標の設定    |         |
|                    | 開発資源の配分    |         |
|                    | 開発体制の構築    |         |
|                    | 開発者の役割     |         |
|                    | 開発者の責任     |         |
|                    | 開発者の権限     |         |
|                    | 開発者の報酬     |         |
|                    | 開発者の評価     |         |
| データ連携・分析           | データ連携の明確化  |         |
|                    | データ連携方針の策定 |         |
|                    | データ連携目標の設定 |         |
|                    | データ連携資源の配分 |         |
|                    | データ連携体制の構築 |         |
|                    | データ連携者の役割  |         |
|                    | データ連携者の責任  |         |
|                    | データ連携者の権限  |         |
|                    | データ連携者の報酬  |         |
|                    | データ連携者の評価  |         |
| 新価値創出              | 新価値創出の明確化  |         |
|                    | 新価値創出方針の策定 |         |
|                    | 新価値創出目標の設定 |         |
|                    | 新価値創出資源の配分 |         |
|                    | 新価値創出体制の構築 |         |
|                    | 新価値創出者の役割  |         |
|                    | 新価値創出者の責任  |         |
|                    | 新価値創出者の権限  |         |
|                    | 新価値創出者の報酬  |         |
|                    | 新価値創出者の評価  |         |

基本項目をチェック

| 企業の高付加価値化実現チェックリスト（データ活用） |  | 達成率 (%) |
|---------------------------|--|---------|
| データ活用戦略の明確化               |  |         |
| データ活用方針の策定                |  |         |
| データ活用目標の設定                |  |         |
| データ活用資源の配分                |  |         |
| データ活用体制の構築                |  |         |
| データ活用者の役割                 |  |         |
| データ活用者の責任                 |  |         |
| データ活用者の権限                 |  |         |
| データ活用者の報酬                 |  |         |
| データ活用者の評価                 |  |         |

データ活用項目をチェック



高付加価値化の実態を認識し、  
目指す姿に向けて  
強化すべきポイントを判断する

## 5. 事例集について

# 事例集について

## 目的

地域の中小企業、支援機関に向けて、本事業の参加企業及び支援機関の活動事例を紹介し、DX・データ活用の推進及び支援の参考にしていただく事を目的として作成をするもの。

## 内容

本事業へ参加した企業の事例から抜粋して、参加企業の取り組みと支援機関（DXコーディネータ）の支援内容を紹介する。

## 分類

DX・データ活用の取り組みを分類化し、課題や方針に応じて事例を参照できるようにする。

### システム系

データ活用を推進するにあたり、自社の業務システムの改善を行う

### プロセス系

データ活用に伴い、自社の業務プロセスを見直し、効率化を図る

### ダッシュボード系

データ活用に向けたデータ分析手法・ツールを導入し、高度化を図る

### ナレッジ系

データの共有・民主化を行い、全社のデータ活用を促進する

# 掲載企業一覧

|   | 企業名         | 業種     | テーマ                                | 種別            | 支援機関                                       |
|---|-------------|--------|------------------------------------|---------------|--------------------------------------------|
| 1 | 城北機業株式会社    | 製造業    | 社内システム全体最適化に向けた「間材発注システム」の構築       | システム系         | 浜松市<br>公益財団法人<br>浜松地域イノベーション推進機構           |
| 2 | 西田技研工業株式会社  | 製造業    | 生産量維持、向上のための加工技術承継の仕組みを構築          | ナレッジ系         | 株式会社八十二銀行                                  |
| 3 | 株式会社日東電機製作所 | 製造業    | 構造設計のアウトプット作成手順の標準化により出図作業時間の削減を実現 | プロセス系         | 群馬県<br>公益財団法人<br>群馬県産業支援機構<br>群馬県立産業技術センター |
| 4 | 株式会社オギノパン   | 製造業    | BIデータを活用して売上予測から発注業務が完結する仕組みを構築    | ダッシュボード＋システム系 | 多摩信用金庫                                     |
| 5 | 株式会社ヒタチ     | 製造業    | 段取作業の標準時間設定と動画マニュアル作成による生産効率改善     | プロセス＋ナレッジ系    | 埼玉県DX推進支援ネットワーク                            |
| 6 | 株式会社花助      | 販売業    | 顧客のLTVを高める為の施策検討とそのための分析環境の整備      | ダッシュボード系      | 前橋市                                        |
| 7 | 株式会社丸眞製作所   | 製造業    | 付帯作業時間の削減による生産効率の向上                | プロセス系         | 株式会社八十二銀行                                  |
| 8 | 株式会社山本食品    | 製造・販売業 | 出荷予測、在庫管理、直営店のバス台数による売上予測          | ダッシュボード系      | 三島信用金庫                                     |
| 9 | 日穀製粉株式会社    | 製造業    | デジタル管理（ペーパーレス）と見える化を進め、生産性向上を実現する  | プロセス系         | 松本市<br>一般財団法人<br>松本ものづくり産業支援センター           |

# 事例 1：城北機業株式会社（静岡県）

## 支援機関：浜松市（公益財団法人浜松地域イノベーション推進機構）

システム系

### ● 社内システム全体最適化に向けた「間材発注システム」の構築

#### <企業の概要>

- 1918年創業の輸送用機器部品製造業。従業員173名
- 二輪・四輪・マリン用製品を中心とし、幅広い製品の加工・塗装・組立を行う。

#### ◆ 城北機業(株)

|      |                                                                                                                                             |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 課題   | 社内システム全体の最適化を推進するにあたって、システム間連携、転記作業、アナログ作業等複数の課題があげられたが、取組の第一歩として間接材料の発注・検収における「手書きの伝票処理」、「複数の検印処理」のデジタル化を優先課題と位置付けた。                       |
| 取組内容 | 経営層・DX推進PJ担当で社内システム全体の構想を作成し長期目標、中期目標、短期目標に分類する事で作業順序を整理した。まずは短期目標である「間材の一元管理システム化」に着手し、システムの仕様と詳細設計に向けて現状の工程フローの可視化や削減時間を始めとする効果の算出に取り組んだ。 |
| 成果   | 現状の工程フローを可視化する事で新たな課題の発見や「システムで対応するべきこと」と「運用で対応するべきこと」の仕分けを行う事ができた。結果として、システム導入後の業務プロセスやルールが完成し、今後はシステム導入に向けた発注先の選定を行う。                     |

#### ◆ 浜松地域イノベーション推進機構

|      |                                                                                                                                       |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 支援方針 | 最終的に経営判断が出来て情報共有できるダッシュボードが完成できるように、経営的視点や業務的視点及びシステムの視点でデータ活用の伴走支援を行い、支援企業のDX活用を促進する。                                                |
| 支援内容 | 経営層・DX推進PJ担当者と協議を進めながら、業務の見える化・課題整理・改善策・課題解決策、導入システムの検討、データ分析方法を共に考え、実現に向け伴走支援を行う。                                                    |
| 支援結果 | 伴走支援を行ったことで経営層含めデータ活用プロジェクトを浸透することができた。課題の真因特定は会社の企業理念や行動指針・決算等に関わる問題のため特定は難しいが、対策方針・情報提供・情報収集・技術的相談等、外部アドバイザーを活用しながら、マネジメントすることができた。 |



図表：新規業務フロー例



図表：工程作業時間比較

# 事例 2：西田技研工業株式会社（長野県）

## 支援機関：株式会社八十二銀行

- 生産量維持、向上のための加工技術承継の仕組みを構築

### <企業の概要>

- 1939年創業の機械製造業。従業員79名
- 射出成型機、ブロー成型機の加工・組立を中心に、半導体製造設備の設計・製作、専用工作機械の設計製作など一貫生産。

### ◆ 西田技研工業(株)

|      |                                                                                                                                                                                                       |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 課題   | ベテラン社員から若手社員への加工技術の伝達に時間と手間を要していることが重要課題であるため、新入社員への基礎教育の基準の整備と、若手社員への作業情報の一元管理により、ベテランと若手の情報共有を効率化することで、加工技術承継を円滑にする。                                                                                |
| 取組内容 | 技術承継のベースモデルを策定する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>新入社員向けの理論として、図面の読解力、切削加工技術の理論がわかる統一した基礎教育体系を整備する。</li> <li>若手社員向けの実践として、図面に応じた加工プログラムの選定・刃物の種類、加工治具などの情報を一元化した加工手順書を作成。</li> </ul>           |
| 成果   | 技術承継の仕組み構築により、以下の成果を得る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>新人に統一した基礎教育をすることで若手へのステップアップ年数を明確化し、加工手順書の理解力を高める。</li> <li>若手が既存品を独力で加工が行えるようになる。</li> <li>若手の作業時間を短縮する。</li> </ul> 今後は、作業手順書を拡大展開する。 |

### ◆ 八十二銀行

|      |                                                                                                |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 支援方針 | データ活用をきっかけに継続的なDX推進態勢が整備でき、生産性向上のための課題解決ができるよう支援先企業および行内有識者の連携を図った伴走支援をする。                     |
| 支援内容 | 支援先企業プロジェクトメンバーと抱える問題を共に整理し、データ活用による実現手段を共に考え、実現に向けた伴走支援を行う。支援先企業プロジェクトリーダーと協働でプロジェクト管理・推進を行う。 |
| 支援結果 | 課題の洗い出し、整理を確り行うことができた。実証は計画通り進むことができた。検証に関連するITツール情報提供することができた。                                |



図表：作業手順書イメージ

| 品物A     | ビフォー   | アフター   |
|---------|--------|--------|
| 治具セット   | 120min | 60min  |
| 原点・刃物準備 | 210min | 65min  |
| 加工      | 480min | 450min |
| 合計      | 810min | 575min |

図表：工程作業時間比較 37

# 事例3：株式会社日東電機製作所（群馬県）

支援機関：群馬県（公益財団法人群馬県産業支援機構、群馬県立産業技術センター）

プロセス系

- 構造設計のアウトプット作成手順の標準化により出図作業時間の削減を実現

## ＜企業の概要＞

- ・ 昭和26年創業の電気機械器具製造業。従業員145名
- ・ 国内電力会社や大手重電メーカー向けに電力制御装置を一貫生産。

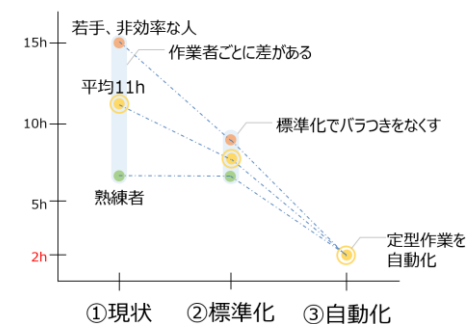
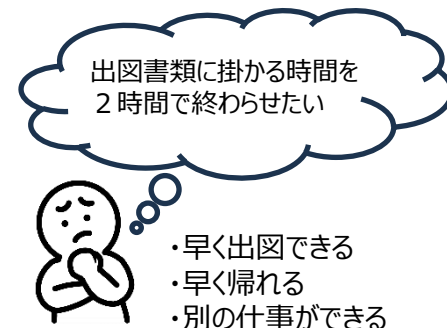


## ◆（株）日東電機製作所

|      |                                                                                                                                                               |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 課題   | 電力制御装置の構造設計工程において、各部署で培われた経験・実績に基づく、属人化されたアウトプット作成手順を統一することで、「設計にかかる作業時間の短縮」、「生産現場でのロスコストの削減」、「若手社員の育成スピードアップ」を実現する。                                          |
| 取組内容 | ①各設計部署の業務フローを作成した上で、標準作業時間を可視化。<br>②生産現場の意見を取り入れながら最適なアウトプット手順を決定。社内ルールを策定し、運用を開始。<br>③設計プロセスの一部を自動化し、設計時間の短縮を図る。                                             |
| 成果   | 構造設計作業のプロセス及び作業時間を可視化することで、下流工程も含めた全体最適を行い、アウトプットの統一・削減、また設計作業手順の標準化ができた。<br>現在、アウトプット手順見直し後の下流工程、設計作業の時間計測により、変動後の効果をモニタリングしており、自動化できる手順の洗い出し、RPAの適用などを実施する。 |

## ◆ 群馬県

|      |                                                                                |
|------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 支援方針 | 企業のデータ活用を進める上で、業務的視点で伴走支援を行い、経営層とプロジェクトメンバーとの橋渡しをしながら、企業のDX効果を創出する。            |
| 支援内容 | 企業の「チームIoT」と協議し、企業の抱える問題を共に整理し、データ活用による実現手段を共に考え、実現に向けた伴走支援を行う。                |
| 支援結果 | 群馬県、群馬県産業支援機構、群馬県立産業技術センターの3人体制で、チームIoTメンバーと進捗会議を定期的に行い、作業進捗、課題解決、報告方法をサポートした。 |



図表：標準化・自動化目標推移

# 事例 8：株式会社山本食品（静岡県）

## 支援機関：三島信用金庫

- 出荷予測、在庫管理、直営店のバス台数による売上予測

### <企業の概要>

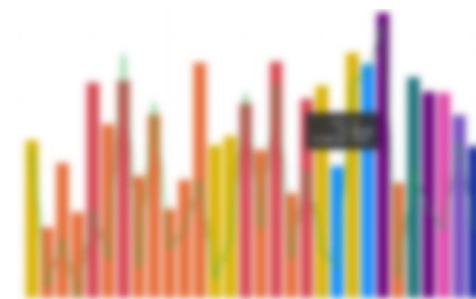
- ・ 明治38年 創業のわさびの加工、製造、販売業など。従業員50名
- ・ 伊豆の代表的な名産品である「わさび漬」などを取り扱う。

### ◆（株）山本食品

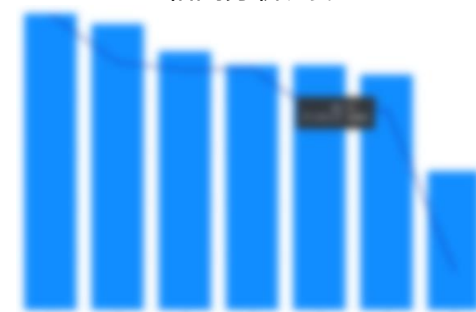
|      |                                                                                                                                                                                        |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 課題   | 「わさび漬」などの自社製品において、わさびが収穫できる時期は一年の中で限られた期間であり、勘が頼りの原料仕入れを行っている。また、資材、商品生産/出荷計画も勘が頼りになっており、正確な予測ができていない。現在の勘が頼りの経営体質からの脱却を実現する。                                                          |
| 取組内容 | 年間を通した発注（出荷）数を把握することで、年次/月次/週次の製造や出荷数の把握を行ない、生産予定を構築する。<br>・ 年間計画に基づく季節要因や出荷傾向の把握<br>・ 月次計画に基づく必要作業員数・作業の把握<br>・ 週次計画に基づくシフト及び仕事の管理による業務の作業効率化の実現                                      |
| 成果   | 新規のエクセル版在庫管理表により「包材の適正在庫量の把握」「個々の包材におけるリードタイム・ロットを調べる機会を得たことで、効率の良い商品発注の発見」「過剰在庫・欠品の大幅削減」を実現。また、PowerBIで作成したダッシュボードにより、「バス台数と売上額の相関関係」「雨天・バス台数・売上額の傾向」「曜日ごとの売上額と売上客数の関係」を可視化し、改善施策を実現。 |

### ◆ 三島信用金庫

|      |                                                                                                              |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 支援方針 | 専任担当者が、本部企業支援（補助金申請支援、専門家派遣、ビジネスマッチングなど）の経験に基づき、企業の成果創出に向けた伴走支援を行う。                                          |
| 支援内容 | 金融機関の視点で、企業が抱える問題・課題を共に学びながら整理し、助言を行う。<br>また、適用可能な補助金・助成金等の情報を提供し、活用に向けた調整を行う。                               |
| 支援結果 | 企業の売上拡大に向けた集計結果を導出するためには、そのベースとなるデータベースが重要であることを認識したことで、企業の保有データの整備とPowerBIによる分析を共に実施できたことで価値ある仕組みの構築に寄与できた。 |



図表：天気・バス台数・売上額の  
相関分析グラフ



図表：曜日別売上額・売上客数の  
相関分析グラフ